

第4回 景観専門委員会 議 事 要 旨

【日時及び場所】

日 時：平成18年5月17日（水）13：30～16：00
場 所：島根県市町村振興センター 6階 大会議室1

【出席者】

景観専門委員会

布野委員長代理、藤岡委員、藤田委員、松本委員、吉田委員

行政関係者

国土交通省出雲河川事務所：内藤所長、土江副所長

島根県：門脇土木部次長、藤原課長

松江市：片山助役、友森市長室長

事務局

国土交通省出雲河川事務所大橋川改修推進室

島根県土木部斐伊川神戸川対策課

松江市市長室大橋川治水事業推進課

【一般傍聴者及び報道関係者】

一般傍聴者：10名

報道関係者：8社

【議事次第】

開 会

挨拶（松江市助役）

出席者紹介

議 事

- 1．第2回景観専門委員会で審議された現況景観に関するご意見と対応について
- 2．大橋川の景観形成に関する「基本方針」の検討

閉 会

【配付資料】

資料1 第2回景観専門委員会で審議された現況景観に関するご意見と対応について

資料2（その1） 大橋川の景観形成に関する「基本方針」の検討

資料2（その2） 大橋川の景観形成に関する「基本方針」の検討

【議事録】

1. 目指すべき景観理念（コンセプト）をまとめるためのキーワードの検討について

- ・大橋川やその周辺に限らないが、松江そのものの町が昔から静寂という言葉、あるいは静かさというものが代表的であったと思う。

（キーワードの整理の論点としていくつか挙げると）

- ・ゾーンの話を最後に出てくると思う。特に上流部は非常に都市的な部分と歴史・文化というものをどういうふうに配置させるかということ膨大なキーセンテンスの中から、絞っていかねばならないと思う。
- ・次に、背景のまちづくりとのかかわりである。現状をベースにして景観の設計を考えていく部分と、時間をかけながら、まちづくりが行われることを前提に考えていく部分とどう仕分けるのか。
- ・また、エリアごとに水との距離感や水との触れ合いの度合いをどういうコンセプトで保っていくのか、非常に水辺に近いという特徴をどう活かしていくのか。
- ・あとは、人がどこから川を見るのか、人がどういうふうに集い、川を歩きながら何を見るのかということから見て、実際の景観設計に当たった答えを出すためのキーワードの整理軸が必要と感じた。
- ・キーワードやコンセプトは100年の計であり、いきなりできなくても、時間をかけて、こういうふうであってほしいというようなことではないかと思う。
- ・（整理の視点として）風情、歴史・文化、風土、自然環境、景観展望といったものがあり、これらをベースにしながら各ゾーンをもう一度整理していく。中流域・下流域には特に叙情的なキーワードや生活文化のにおいがする場所、自然の保護や保全といったものが出てくると思う。上流域では、特に景観ポイントや視点場の重要性、都市の成り立ち、都市の利用性などが絞り込まれてくると思う。
- ・きょう歩いてみた印象として、大橋川は幾つもの時代の施設やしつらえといったものが重なっている。いつの時代かに一遍にできたものではなく、それぞれの時代を反映した施設がさまざまな場所にある。付け加えると、現状が決して最善ではないと思う。
- ・資料については、まだ追加すべきものがあると感じた。例えば、ラフカディオ・ハーンが大橋川に民家の障子を通した明かりが映って、これこそなくしてほしくないものだといった記述をしているが、大橋川が昔評価されていた1つのよさであったと思う。与謝野晶子も大橋川を通った感想を述べている。

- ・また、松平不味公が、“わしの国では田の中を帆かけ舟が行く”というようなお国自慢をしたという話も伝わっているが、これは天守閣あるいは楽山公園辺りから大橋川方面を眺めた景色ではないか。大橋川の原因風景というのは、中州として残っているような場所がもっと湿原であった時代の景色ではないかという気がする。
- ・嵩山、和久羅山は、ある面では松江の象徴的な景色になっており、これらの記述にもう少しウエートを置いたら良いと思う。
- ・松江は全国で最も、静かな町にしたらいいのではないか。特に中流域は静かなところであって、小鳥のさえずりが聞えるような、そういう大橋川の沿川も1つの誇りになると思う。
- ・仮に、こういうキーワードを持つと、大橋や新大橋をつくり変えるときでも、構造的にあまり自動車の音がしないような工夫ができるかもしれない。けたをもっと低くし、大きな船は通れないという仕組みにしておけば、まさに静かな大橋川の川筋ということになる。それが松江全体の、アイデンティティーのようなものになるのではないかと思う。
- ・（古代的な景観、神話の世界という点で宍道湖・中海を含め広い範囲で大事なポイントとしては）1つだけ注目すべきが、矢田の渡しのところの、朝酌促戸の渡し、あるいは朝酌の渡しという、2本の船渡しの場である。そこでの漁や市場の情景は、8世紀ぐらいの文献では、よその地方ではあまりない極めて重要なところである。
- ・上下流を見通せるというのはおもしろい。特に上流部の左岸側を歩いて上流を見ると橋を通して宍道湖の湖面が見通せ、下流を向くと、緑の湿地が見える。都市的な場所から全然違うものが見通せるというのはとても魅力的であると思う。
- ・右岸からは湖面が見えないので、右岸に立つか左岸に立つかで、全然見え方が違って、見せられるものも違う。（左右岸での）役割分担みたいなものが結構おもしろいと感じた。
- ・川そのものについては、都市部の深い緑の川とは異なり、川底の砂地や藻が見え、潮のにおいがしたりする。シジミとりの人を時々見かけるが、入ろうと思えば入れる川が目の前にあるというのは、大橋川らしい。
- ・中流部のほうは、河岸がかなり複雑な形をし、水路が錯綜している（剣先川や朝酌川の付近）。それがどのような機能を果たしているか、その辺の河岸づくりをどのようにしたらいいのかということとはよく考えなければいけないのではないか。
- ・何カ所か石積みでありられるところがあり、そこに立つと、川もよく見え、河岸や町が

全然違った風景で見ることができる。ぱっと降りて見られるところが身近にあるというのも非常に重要かと思う。

- ・雨が少し降っているときに散策すると、このしっとり感が、松江の風情というものにもつながる景観に近いと思った。改めて護岸沿いに見る素材を見たが、普通のコンクリートを除けば、地場産の素材を使っている。大根島から出た島石の他、来待石、塚石、荒島石などもみかけた。やはり、本物はしっとりした景観の中では逆に生きて見えると思う。やはり大橋川の面影を残すというようなキーワードは大切かと思う。
- ・面影とおっしゃったのは、いつの面影で、どういうことか。
- ・やはり近世か。
- ・初代大橋ができて、城下町の原点となるような形ができた頃か。あるいは、ハーンが見た時代かもしれないが。
- ・（上流部の）松江大橋や北の旅館街は、歴史的・文化的な雰囲気がある。それから、中流部の水郷的な風景、下流部の『風土記』の時代からあまり変わらないような風景、このあたりで、かなりコンセプトははっきりしている。むしろ、方向性はあっても、河川の治水から考えて、それが具体化できるのか、景観優先で残せるかどうかというところに関心がある。
- ・音を何か構造で制御、誘導する（静かさに配慮する）ということは方法としてないことはないと思う。町の中の音というご意見を聞いたのは初めてであり、とても新鮮だし、はっとした。
- ・松江市のよさを何が一番あらわしているかということ、やはり国際文化観光都市松江だと思う。
- ・新大橋から大橋を見たときは調和であってほしいが、逆向きにくにびき大橋側を見たときには、歴史・文化というイメージはないと思う。新大橋の位置とその周辺というのが微妙なコントロール・ポイント、境界面となっているのではないかと感じている。
- ・中流部、特に中州を中心に見たときの剣先川や中の島については、今後利用の面からいろいろ意見がまだあると思うが、景観の面からは1つ、水郷松江の原風景というところは、非常に重要なポイントになるかと思っている。大橋川沿いと剣先川沿いは、いずれコンセプトを書き分けていかねばならず、中流と簡単には言い切れない部分もある。もし今後の議論で、既に航路として機能している大橋川と、これから静かな水面ができるであろう剣先川との役割についてご意見をいただけるとありがたい。

2. 区間ごとのキーワードの検討にあたって

- ・上流域のところでは、最初に提案した静寂というか、静かさというふうなものを考えたときには、両側の川岸は歩道だけということになる。
- ・北側の縁と南側の縁とで、夕日が見えない、見えるという問題などお互いに（お互いの景観を）補完していくようなやり方ができないのか。
- ・新大橋は上流は歴史的景観、下手は近代的な建物が両側とも並んでいる。新大橋をつくるときに、西側の欄干やけたは歴史性のあるようなものを使い、東側のほうは近代的というふうに、1つの橋を両方から違ったようにつくってもいいのではないか。
- ・中流の、剣先川の筋のところは船で行くべきところではないか。
- ・川が広いので左右岸別々でもいいと思っていたが、やはり大橋を歩いているうちに、あまりに違うと変だなと思った。
- ・大橋から新大橋までの間は、ある範囲の中でコンセプトが質的に合っているといいと思った。
- ・新大橋から下流については、左岸側の生活のたたずまい、右岸側は都市的な景観、その中央に中州があるという、コントラストを楽しむことができないか。はたしてそれがどれくらい不調和なのか、かえっていいのか、検討してみたらいいと思う。新大橋から上と下で合わせる趣向でいく場合と、少しコントラストを持たせて何か分ける場合というのも1つの手かと思った。
- ・中流部については、河岸やクリーク、チャンネルの実態を良く知ることが先決かと思った。
- ・使う景観もあってもいいのではないかと思う。例えば、高欄や防護柵に水郷祭のときなどに旗を立てる装置を組み込んでおけば、イベント時の景観として彩りのあるものにつながっていくのではないか。のぼりを立てる場所や仮設的にベンチを置く場所、そういったものは使うという意味では重要かと思う。
- ・上流部については、人が一番集まりやすい場所であり、北側の雰囲気は継承していかないといけないと思う。
- ・南側については、言葉は悪いかもしれないが、あまり残すような建物は無い。ある程度フリーに計画を立てるとすれば、北と同じような和風の建物にする案も1つあるし、緑を入れてやわらかな雰囲気にしていくという手もあるのではないかと思う。
- ・あとの場所については、かなり整備しても、それほど人は集まらないと思う。というの

は、松江の人口は多くないし、また、観光客は大橋川に限らず色々な場所に行きたいと思う。そういうことを考えると、最上流部ほど費用とか材料とかに凝る必要はないと思う。ただし、新大橋～くにびき大橋間は、それより下流の自然の多い場所とをつなぐバッファゾーンの役割が必要ではないか。今残っている漁港や船の係留場を排除するのではなく、生活を景観に取り込むような配慮が必要だと思う。

- ・それから、中州周辺については、原風景や生態系を考えれば、湿地として利用する方が土地の特性に即しているのではないか。

3. 今後の委員会の進め方にあたって

- ・ある程度のキーワードがでてきたと思うが、委員会としてキーワードを整理する必要があるのか。

大分論点の整理はでき、イメージは固まってきたが、表現については、できれば委員の方々にふさわしい言葉を選んでいただく作業をお願いしたいと思っている。・今日のまとめを5月から6月前半にやって、本委員会のほうに報告できる準備がしたい。その後、今日話題になったようなキーとなるポイントで、視点場を数力所選び、まずそこを絵にしてみると、言葉以上に伝えやすくなる部分もあるのかと思う。視点場もまた1回ご相談させていただきたい(事務局)。

- ・景観理念のコンセプトや基本的な考え方をまとめるに際して、まちづくり委員会と専門委員会の仕分けはどのようになっているのか。

我々の持っている作業のイメージとしては、文章を成文にする役目を持っているのは、あくまでも本委員会である。景観の委員会としては、本委員会がつくる基本方針の中に景観として入れるべき要素をきちっと書き込んでもらうことが必要であり、成文もしくは重要なワードという形で本委員会に渡す方法があると考えている。ただ、絵を書くという作業は、景観の専門委員会の担当部分であり、次につくる基本計画(設計の基礎段階)に結びつくものを作業していくというようなことになろうと思っている。こちらの委員会から文章をどの程度出すかどうか5人の委員の皆様のご合意でもって進めさせていただければいいと思うが、やはり景観は重要な要素なので、できる限り本委員会の議論の前に、先にキーワードを投げかけたほうがいいと思っている(事務局)。

了